

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人みその		
事業所名	みそのホームグループホーム		
所在地	秋田市寺内蛭根2丁目6-34		
自己評価作成日	平成29年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で温かい雰囲気の中で過ごして頂き利用者のストレス軽減やリフレッシュに努め、又ホームの行事に参加し充実した生活が送れるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護施設とデイサービスを併設したグループホームである。平成12年の開設時から看取りを実施し、グループホームの理念である、安心、喜び、感謝を実践し利用者の支援にあたっている。看取りを行った際には、職員間で振り返りを行い、マニュアル等の見直しや職員のメンタル面でのケアを検討するなど、利用者、家族のニーズに対応した積極的な取り組みが行われている。看取りを行うにあたり、協力医療機関の他、内科、皮膚科、眼科の往診による協力体制も整備されている。また、運営推進会議には、ホーム周辺の3つの町内会長にも参加してもらうなど、災害時などでの協力体制が築かれている。当ホームが秋田市指定の避難場所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム入口に掲示し感謝、喜び、安心という理念のもと職員が共有して実践している	職員が目につくところに掲示し、日々の利用者との活動に感謝し、レクリエーションなどの活動に喜びを感じ、事故に注意し安心して生活ができるよう意識した支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買物、外食時など地域の方々と関わりがある。みその祭には近隣住民も参加されている	近隣の町内会に広報紙を配布し、グループホームの情報を発信しているほか、みその祭りやバザーなどを通して、地域の方々との交流が図られている。また、近隣の小学校から行事への案内があった際には、可能な限り参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	見学、申込時など不安、悩みに対し答えている。日赤短大、日赤看護大学の実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回定期的に開催している。参加者からの意見をサービス向上に活かしている。	併設されている小規模多機能型居宅介護施設と合同で実施している。参加者は近隣の3町内会の会長、行政関係、婦人会、利用者、家族等である。会議では、グループホームの情報提供や災害発生時の地域における協力体制などについて、意見交換が行われている。	会議の議事録について、参加者の記載がない月があり、地域密着型の観点から参加者の肩書や名前が分かるような議事録に改善されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターにサービス状況を伝え協力関係に努めている。	地域包括支援センターとの連携を図りながら、制度等に関する新しい情報を提供してもらったり、グループホームの情報を提供するなど連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はすぐ道路があるためやむを得ず施錠している。	外部の研修に可能な限り参加し、受講した職員が伝達している。ベットから転落したケースなどがあった時には、職員間で話し合いを行い、拘束にならない範囲でベット柵を設置するなど、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めケア見直し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し情報共有し、活用出来るよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの不安、疑問はその都度対応し、納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加して頂き意見を反映したり意見ノートを用意している。	気軽に要望や意見を伝えることができるよう、意見ノートを準備しているほか、通院等で家族が来所した時に聞くようにしている。利用者からは、ゆっくり話せる夜勤の時間帯等にさり気ない会話の中から聞き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開きカンファレンスノートに意見を書き入れ反映している。	カンファレンスの時や職員会議などで意見交換する機会があり、業務や利用者に関することについて、意見交換が行なわれ改善に結び付いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見をもらい全体会議で反映して努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を積極的に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市ケアパートナーズによる相互訪問、研修、作品展に参加しネットワークを構築している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を必ず行い不安、悩み、要望を聞き安心して頂けるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や契約時に不安、要望を良く聞き関係づくりに努めている	
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、縫物、洗濯たたみなど日常生活で行う事を一緒に行っている。	
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は自由にして頂きゆっくりと会話出来るよう家族室も用意している。	
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの公園、スーパーなどに立ち寄っている。	近隣の公園に散歩に出かけたり、スーパーや行きつけの美容院等に出かけているほか、家族の協力をもらい、墓参りするなど、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	移動時、利用者同士声を掛け合っている。一緒に制作活動したり行事に参加している。	
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年1回開催している法要ミサに招待している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、本人に意向を聞き介護計画に活かしている。	日常の会話や夜勤の時間帯で、ゆっくり話せる時に本人の思いなどを聞き、その内容をケアマネジャーに伝え介護計画に活かされている。自分で話せない利用者については、普段の会話の中で思いをくみ取るようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活歴を聞き把握している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活から変化に気付き連絡ノート、申し送りで気付いた事を共有して実践している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行っている	利用者や家族からの希望や意見を伺い、モニタリングとカンファレンスを通して、職員間で情報を共有し介護計画が作成されている。利用者に変化などがあった時には、カンファレンスノートに記録を残し、話し合いの時に活かされている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、申し送りで気付いた事を共有して実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパー、医院、公園などに出掛けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、歯科、眼科、整形外科など利用している。受診出来ない方は、往診対応している。	家族が付き添い、かかりつけ医を受診している。受診する前に、ホームから状況を家族に伝え、受診後はホームに受診結果を家族から報告してもらっている。また、往診対応が可能な利用者については、往診で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や他部署の看護師と連携をとり支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、相談員と連携をとり情報交換を行い早期退院が出来る様支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム開設当初から看取りを実践している。今年度もお1人看取りを行った。	開設当初から看取りを行っているほか、胃瘻を造設した利用者を受け入れている。家族の希望で看取りを行う際には、家族やかかりつけ医と十分な話し合いを行い、方針を共有したうえで看取りに取り組んでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変時のマニュアルがあり訓練を行っている。研修にも参加している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防立ち合い、水害時の避難訓練、夜間想定訓練など行っている。	毎月訓練を実施し、消防署が立ち合いの時には助言をいただき、計画に活かされている。緊急時の体制については、警備会社と契約しているほか、近くに住んでいる職員がすぐに駆け付けられる体制になっている。訓練を通して、併設されている小規模多機能型居宅介護施設との協力体制が出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いは普段から気を付けている。ご家族の面会時は家族室を使用して頂くなどプライバシーに配慮している。	家族の面会などがあつた時には、家族室を利用してもらい、ゆつくり寛いでもらえるよう配慮している。また、慣れてくると、言葉遣いが軽くなってしまうので、親しみやすい言葉で対応している。希望があれば、テーブルの席を変更するなど、意思を尊重している。	トイレと廊下との境目に戸や仕切りがなく、プライバシーが保護されているとは、言い難い状況であると思われる。トイレ使用時のプライバシーが確保されるよう改善を期待します。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を会話の中から知ったり家族より情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたり、本人の希望を優先し、その人らしい生活が出来る様支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、誕生会の際は化粧をしたり、外出時は好みの洋服を着て頂くようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲がそそられる様、盛り付け、食器に気を付けている。ご本人の嗜好を聞き、メニューに反映している。	日曜日以外は、調理されたものが届き、盛り付けを行い配膳されている。日曜日の献立については、利用者に希望を聞き反映させているほか、季節を感じる事が出来るよう献立にも配慮している。また、数名の利用者が食器拭きを手伝ってくれている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック、水分量チェックをして必要量摂れる様把握に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食毎日行い、ポリデント介助等行っている。歯科往診対応の方は現在4名いる。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄間隔、パット類の使用など本人に合わせて自立出来るよう支援している。	利用者の排泄の間隔や時間を職員間で共有出来るよう排泄チェック表に記録している。利用者の変化を感じ取り、トイレに誘導しているほか、リハビリパンツや尿とりパットを活用しながら、可能な限り自立出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳飲用してもらい、バナナも毎日食べて頂いている。口腔体操、体操を毎日行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、病院受診時休んでもらったり本人の希望で変更する事もある。	入浴前にバイタルチェックを行い、ゆっくり時間をかけて入浴してもらっている。ほとんどの利用者は見守りが必要である。一般浴が難しいケースについては、併設されている小規模多機能型居宅介護施設の特殊浴槽を利用している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動をしたり、お昼寝をとり安眠して頂けるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬をファイルしている。お薬手帳も管理しておりすぐ確認できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ピアノを弾いてもらったり、制作活動を役割をもってもらい行っている。ドライブも実施している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見ながらドライブを実施している。	桜やつつじ等の季節には、日程を決めて出かけているが、それ以外の外出については、天気の良い時に散歩やドライブに出かけている。買物などの希望は特に無いが、家族と一緒に掛けた時に買物をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持されている方はいないが、外出したさい会計など出来る様、支援していきたい。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際お礼の電話を本人からしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るくし季節の花を飾ったりしている。ホールにソファを設置しゆっくり過ごせるよう工夫している。	日中活動で製作された作品を中心に廊下に掲示されていて、どれも素晴らしい作品である。また、リビングにはソファや畳が設置され寛げるスペースが設けられている。また、季節を感じてもらえるような生花も飾られている。冬期間ということもあり加湿器を使い、適度な湿度が保てるよう努力している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き自由に座ってもらったり、お昼寝をされている方もいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの公園、スーパーなどに立ち寄っている。私物、椅子、TV、写真等を置き居心地良い空間作りをしている。	各居室には、ベットやタンス、洗面台等が備え付けられている。私物については、今まで家庭で使っていた物を持ってきて使用しているほか、家族の写真飾っていたり、部屋で趣味の写経を楽しんでいる利用者があるなど、清潔感があり、ゆったり過ごせる空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が自立した生活を送れる様見守りしホーム内の安全管理をしている。		